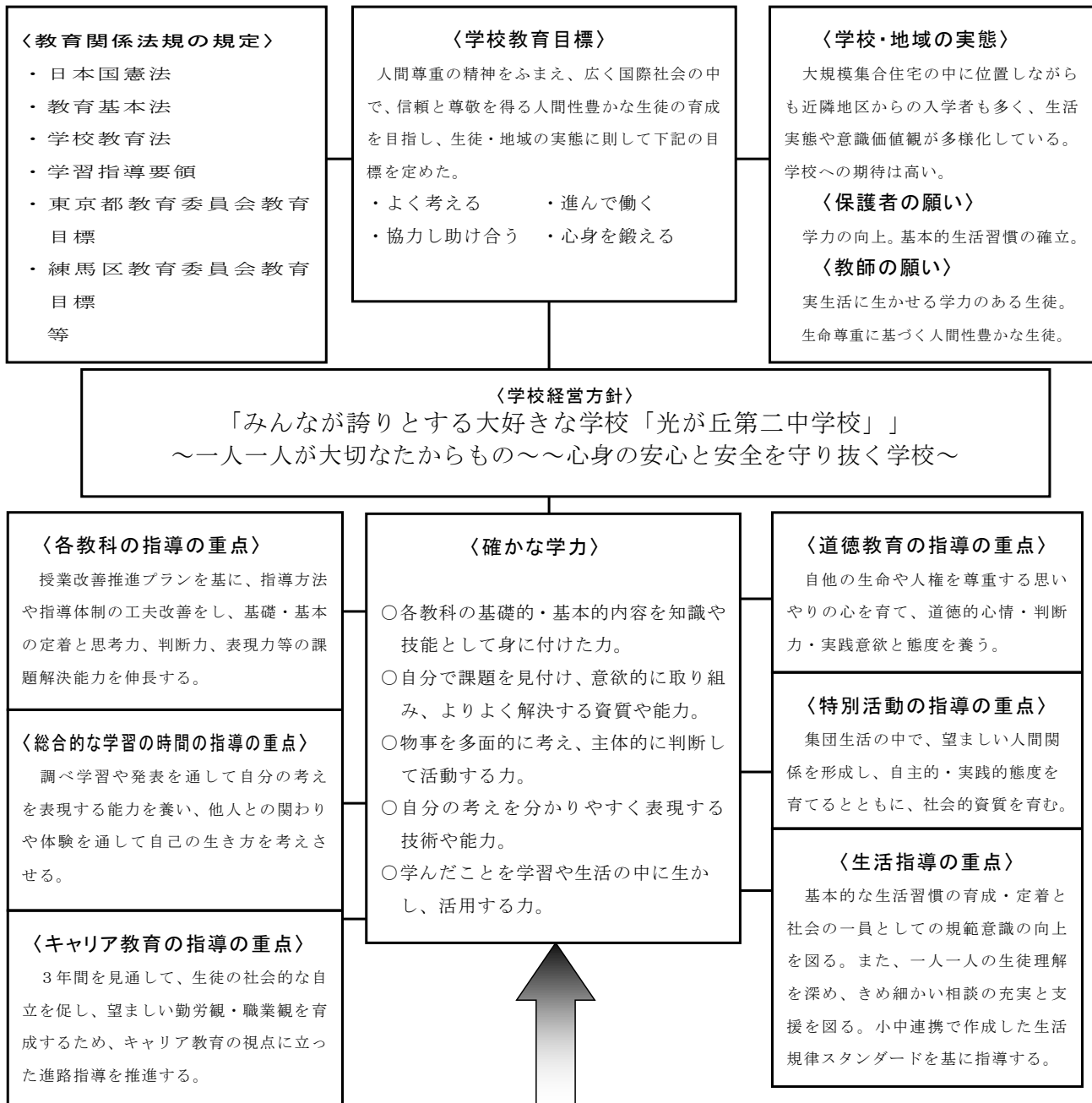


令和8年度 学力向上を図るための全体計画

中16 練馬区立光が丘第二中学校



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
①定期考査の分析をする。 ②観点別学習状況の評価を分析する。 ③生徒が行った授業アンケートから、学習状況・学習の実態を把握する。 ④分析結果を反映させた授業改善を実施する。授業のねらいや目標を明確にする。必要に応じて学習補充教室を実施する。 ⑤3観点を踏まえた学習内容を設定する。	①数学科における習熟度別少人数授業の実施により、習熟の程度に応じた授業を展開し、生徒の能力や適性に応じた補充・発展の学習を進める。 ②英語科における少人数授業の実施により、生徒のコミュニケーション能力や学び合い、適性に応じた補充・発展の学習を進める。ALTとのTT授業により学習効果を高める。	①人との関わりを大切にしたい研究授業を通し、学力向上のための指導法を工夫する。 ②授業アンケートを実施し、カリキュラムの課題を改善する。 ③ICTを活用した授業の実践を共有して、実践を広げる。 ④研修会でICTの活用方法を共有すると共に、新しい利用法を研修し、指導方法の改善を図る。	①毎日の授業における観点別学習状況把握のための資料収集を行う。 ②生徒による自己評価表(個人内評価と反省)の導入とその充実を図る。 ③学習指導要領に則った丁寧かつ適切な評価評定の在り方についての研修と工夫を行う。	①学校公開日や学校公開週間を通して保護者・地域との連携を深める。 ②外部アンケートを通して、地域の方と学校が一体となった教育を推進する。